

## 津田内湖干拓地の歴史



昭和 36 年



令和元年

- 昭和 27 年 公有水面埋立承認
- 昭和 42 年 干拓事業着工（県下最後の 15 番目）
- 昭和 44 年 干陸式  
国が減反政策のため開田抑制を決定
- 昭和 45 年 畑への転換を決定
- 昭和 46 年 レンコン生産組合ほか 2 生産組合設立  
津田内湖土地改良区設立  
団体営干拓地区内農地整備事業着工（～47 年）  
牧草生産組合ほか 1 生産組合設立
- 昭和 52 年 団体営土地改良総合整備事業着工（～55 年）
- 昭和 53 年 津田内湖畑作営農組合設立（生産組合統合）
- 平成 9 年 団体営単独土地改良事業で畑地再整備事業着工（～令和 3 年）
- 平成 31 年 津田内湖畑作営農組合解散
- 令和 3 年 果樹団地入植者募集



## 干拓地への入植と挑戦！ 津田を天下の台所へ～挑戦し続ける産地～



津田町にある津田内湖干拓地で整備を進めている果樹団地。そこに20～30代の若者8人がナシとブドウの栽培準備を行っています。

津田内湖干拓地は昭和46年に畑地として完成しましたが、農家の高齢化や後継者不足などが深刻化しており、平成31年には畑作営農組合が解散するなど、農地の有効活用が模索されていました。

令和2年の農林水産省作物統計調査によると、滋賀県の果樹栽培面積は全国最下位となっており、本市はその中でも特に低い水準にあります。

そこで、収益性が高く、若い農業者が活躍できる果樹に着目し、津田内湖土地改良区やグリーン近江農業協同組合、県、市が連携して「津田干拓果樹園準備委員会」を発足しました。

果樹団地は広さ約9ヘクタール、18区画（1区画約50アール）。現在14区画で栽培準備が進んでおり、残り4区画も入植者の応募を随時受け付けています。

湖岸道路沿いに位置するこの団地は、観光型農園の運営や他産業との連携（果樹を使った商品開発など）により、本市の新たな特産品の産地、そして経済活動を創出する契機として期待されています。

津田内湖干拓地で始まった、全国的にも類を見ない規模の新たな挑戦。不安やプレッシャーを感じながらも、果敢に果樹栽培に挑む8人に、今回インタビューを行いました。

——今日はよろしくお願ひします。まず、果樹団地入植に応募したきっかけから教えてください。

沖さん 家族から果樹団地入植の募集があると教えてもらったことがきっかけですね。当時はまだ大学生でしたが、農業について学んでいたこともあり、生まれ育った近江八幡市で農業ができればいいなと思って応募しました。

水原さん 私は津田町で先にナシ栽培を始めていたこともあり、この計画の関係者から話を聞いたことがきっかけですね。先に始めたという自負もありましたし、収支を計算して利益が見込めたこと、あと仲間が欲しかったので応募しました。

中村さん もともと農業をすることは決めていて、そのなかでもナシが大好きなのでナシを作ろうと思っていました。県立農業大学卒業とちょうど同タイミングでこの募集があり、運命を感じて応募しました。

——農業の魅力・やりがいとはなんですか？

和田さん はい！まず、自分で作ったものが人に喜んでもらえるっていうのが一番大きいですね。今作っているのはナス・ピーマン・オクラですけど、立派に育った野菜たちを見ると、たまらなく愛情がわくわく（手を動かしながら）です！

中村さん わくわくってなんやねん（笑）

山中さん 僕も似ていますね。農業は目に見えて結果がわかるので、すごくやりがいがあります。あと、直売などをすると、お客さんの反応が直接聞けたりするので、それもやりがいにつながっていますね。

——すでに就農している人にお聞きします。就農してから苦労していることはありますか？

水原さん まずは天候ですね。特に昨年は水害で、野菜を栽培している農場が冠水してしまいました。果樹だと獣害ですね。今年の夏に収穫予定だったナシは、カラスや小動物にほぼ食べられてしまいました。来年からはネットを張るなどの対策をしたいです。自然には泣かされっぱなしです。

山中さん 僕もやっぱり災害ですね。露地栽培にしろハウス栽培にしろ、台風などは毎年怖いんです。何年か前にハウスが浮き上がったこともあって。あと、イチゴ狩り農園の経営もしているんで、新型コロナウィルスの影響は大きかったです。イチゴだけでやっていくのが不安だったことも、今回の入植に応募したきっかけのひとつですね。



## ブドウ部会 profile

1. 前職 2. 最近のマイブーム 3. ブドウのおすすめの食べ方・豆知識  
4. 植えてみたいブドウの品種 5. 生産組合の雰囲気は？

### ゆげたのぶもと 【左上】 弓削田 信基さん

- 1984年生まれ、大中町在住  
1. 自動車関係  
2. ラジオ・ポッドキャスト  
3. 今、新品種の開発ブームなので、お店で新しい品種を見たら積極的に試してみてください。  
4. 富士の輝き  
5. 「若っ！」何でも柔軟に取り組める若さがあふれています☆



### おきわかな 【左下】 沖 若菜さん

- 1999年生まれ、加茂町在住  
1. 県立農業大学校（現在）  
2. サウナ  
3. 房の上側が甘いので、下から食べるとおいしいです。  
4. マイハート（ハート型をした品種）  
5. 飾らない雰囲気と和気あいあいとしています。

### つじしゅうへい 【右上】 辻 修平さん

- 1994年生まれ、多賀町在住  
1. 製造業関係  
2. Youtube 観賞  
3. 一度凍らせると皮もむきやすくてひんやりとおいしいです。  
4. 竜宝  
5. 組合員一人ひとりが個人の経営発展はもちろん、産地づくりにも積極的に取り組んでいます。

### やまなか りょう 【右下】 山中 遼さん

- 1989年生まれ、中小森町在住  
1. バンドマン  
2. ゴルフ、格闘技を見ること  
3. 皮の表面に付いている白っぽい粉はブルームと呼ばれ、病気や乾燥を防ぐ働きがあり、鮮度がいい証拠！  
4. シャインマスカット  
5. 年齢が近いので楽しくやっています。いいメンバーに出会えました！

——最後に、次世代の農業就労者へメッセージをお願いします。

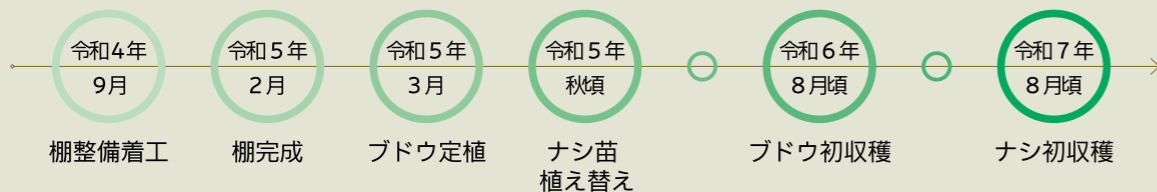
和田さん 僕は吉長さんと一緒に農業をしているんですけど、「ひとりではしんどいな」と思うときも、仲間がいると頑張れるし、楽しく作業できます。楽しくやっていける仲間を見つけてもらったらいいと思います。山中さん さっきも言いましたが、やったらやった分、目に見えて成果がわかる職業なので、やりがいはあると思います。あと、農業って「汚い」とか「儲からない」とかいうよくないイメージがあると思うんですが、それをこれから出てくる若い子たちと変えていきたいと思っています。

一同 おお（拍手）

——熱いメッセージをありがとうございます。それでは、最後に組合長からもメッセージをよろしくお願います。

辻さん はい。僕も同じようなことですが、全国的に農業従事者が減っている中で、若い世代が頑張っているかなければならないと思っています。まずは僕たち生産組合が近江八幡市や滋賀県の中で成功例として確立していきたいと思いますので、果樹に興味がある人はもちろん、漠然とでも農業に興味がある人がいらっしやれば、一緒にやっていきたいです。津田千拓地で待っています！

## 果樹団地の今後のスケジュール



入植希望の問い合わせ

農業振興課 TEL (36)5514・FAX (46)5320

※募集要項は市ホームページに掲載しています (HP 17579)。

## ナシ部会 profile

1. 前職 2. 最近のマイブーム 3. ナシのおすすめの食べ方・豆知識  
4. 植えてみたいナシの品種 5. 生産組合の雰囲気は？

### わだ あきら 【左上】 和田 明良さん

- 1993年生まれ、安土町小中在住  
(大阪府吹田市から移住)  
1. コンクリート検査員  
2. 麻雀、料理  
3. 暑いときに冷えたナシを食べるのが最高！  
4. あきづき、幸水、凜夏  
5. いい雰囲気だと思います。



### みずはら ひろき 【右上】 水原 弘樹さん

- 1989年生まれ、安土町常楽寺在住  
1. 市職員  
2. 釣り  
3. ナシは追熟しないため、収穫後に甘味は増しません。  
4. 香麗、凜夏、甘太  
5. ナシ栽培はみんな初めてなので、試行錯誤しながら情報共有しています。

### よしなが まさひろ 【左下】 吉長 昌弘さん

- 1993年生まれ、安土町小中在住  
(大阪府茨木市から移住)  
1. 建築関係  
2. ゲーム、野球観戦  
3. キンキンに冷やして食べる！  
4. 幸水  
5. 若手の集団なので元気、仲良しな雰囲気です。

### なかむら ひろあき 【右下】 中村 洋明さん

- 1991年生まれ、野村町在住  
(兵庫県神戸市から移住)  
1. プラントエンジニア  
2. バスケットボール  
3. 冷やして食べるに限ります！  
4. 香麗、甘ひびき、幸水、凜夏、豊水、陽香、あきづき、新高、甘太  
5. 個性があふれ、にぎやか！やる気がみなぎっています。

## インタビューでは 本音でトークしてもらいました！



——今年4月から8人で「津田千拓地果樹生産組合」を立ち上げられ、販売・生産方針などについて検討していると聞いています。その生産組合ではナシ部会とブドウ部会に分かれているようですが、それぞれナシ・ブドウを選んだ理由はなんですか？

中村さん 僕はナシ部会ですが、やっぱりナシが好きなのが1番の理由ですね。植えたい品種がたくさんあります。

吉長さん ナシ部会を選んだのは労働力と投資額がブドウに比べて少ないからですね。最初はブドウもやろうと思っていたんですが、断念しました。

一同（笑）

辻さん リアルですね。

——ブドウ部会の皆さんはどうですか？

沖さん ブドウの方が好きだったというのがありますが、将来的には果樹

を使った加工品を作りたいと思っていて、ブドウの方が加工品に使いやすいと考えたからです。

辻さん 右に同じ！ブドウの栽培は難しい技術が必要で、その点は苦労するところなんですけど、凝り性なので面白味も感じています。また沖さんが言っていたみたいに、ブドウの方が面白い加工品が作れると思って。決してナシのことが嫌いな訳ではないですよ（笑）

一同（笑）

——こんなに本音で話して大丈夫ですか？

吉長さん お互い尊敬していますし、仲がいいので大丈夫です。

——生産組合のこれからの展望や、挑戦してみたいことはなんですか？

水原さん 滋賀県のナシの栽培面積は約45ヘクタールしかなくて、私たちの果樹団地がすでに滋賀県の1割の面積なんです。まだ何も植えてない段階で言うのもなんですけど（笑）。まだまだ挑戦者ですが、まずは他市に追いつきたい。どんどん仲間を増やして、滋賀県で1番になり、全国と戦えるような生産地になることを目指しています。

弓削田さん ブドウ部会では、おいしいフルーツの「産地」を目指して技術を磨き、次に「観光地」を目指して、飲食業や製菓業、イルミネーション事業も挑戦したいです。